

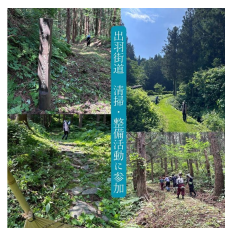
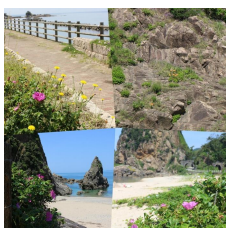
No.46

20260915
発行

さんぽく地区まちづくり通信

さんぽ

タイトル「さんぽ」には、タンポポの綿毛が飛んでいくように話題が広がり、まちづくりの花がたくさん咲きますようにとの願いが込められています。



山北の美しい自然美、地域活動や人々の姿を発信しています！

山北まち協
公式LINEに
お友達登録を
お願いします！！



お友達登録 QR
コードはこちら

m(_ _)m

“まち協・コラム”

先回の「まちづくり通信」では山北の人口と世帯数の推移を紹介しました。高齢化率の特に高い集落の代表者（区長等）に聞き取りをしていると、「活性化よりも、いかに集落での生活を維持していくか模索中だ」とのお話をいただきます。継承されてきた神楽や念仏さえもできなくなった。「昔は集落皆で味噌をつくったが、今は教える人もいなくなった」と懐かしそうに話してくれた総代さんがいました。皆さんの周りにも古き良き生活文化の継承が沢山あったはずですよ。

人口減少と高齢化が急激に進む今、そのような生活文化の消滅等を個々の集落ではなく山北地区全体の課題として捉える必要性を強く感じています。しな布の文化は、地域おこし協力隊員などの新しく若い力が加わったこと等で、希望の芽が育ち始めています。

同様に、集落、地区単位でできないことも、広く新しい視野を取り組むことで改善できるかもしれません。

まち協は、一緒に活動いただける地域内外の新しい力を求めており、「関係人口」の取り組みもその解決に向けたものです。

皆さんも一緒に私たちの山北地区を素敵なまちへ変身させていきませんか!?「ワガコト」として皆さんの力を少しでも良いのでお貸しください。連絡いただけたら嬉しいと思う昨今です。

(山北地区まちづくり通信編集部)



山北の農業の可能性を求めて挑戦!!

“アンジェレ” (特別品種: ミニトマト)

の栽培を手掛ける 齋藤 博 氏(越沢)

齋藤さんが農業に飛び込んだのは約15年前の40代半ばの時、耕作放棄地が増えていくのを目の当りにし、米作りを行いながら山北にまれな園芸農家の新しい道を拓こうと令和2年から栽培を始め、試行錯誤を繰り返しながらもテレビ等で取材を受けるまでになりました。

高級ミニトマト「アンジェレ」を名乗れるのは、糖度8%以上のJAに出荷したモノだけで、齋藤さんの「アンジェレ」は主に神奈川県に出荷されているそうです。

先日は、このトマトの栽培管理体験として百姓やってみ隊の皆さん約20名を受け入れていただきました。

この他、参加している「山北担い手ネットワーク」では栽培したお米のブランド化にも挑戦しており、齋藤さんのお米も福岡県の企業が東京都四谷に開業したおにぎり店に出荷しているとのこと。

今は田園回帰の時代、農業に魅力を感じる都会の若者たちも多いとの紹介もあります。農業の可能性に山北の次世代も続いてくれることを期待する齋藤さんなのでした。

【編集・発行】

山北地区まちづくり協議会・事務局

TEL: 0254-77-3111(代)

s.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp

〒959-3993 村上市府屋232番地

(村上市山北支所 地域振興課総務管理室内)



受け継がれた「焼畑」の意義

総面積283.91平方キロメートルの山北地区。その93.3パーセントを占める山林は、古くから豊富で多様な自然資源をもたらし、人々はそれを利用して暮らしを営んできました。

なかでも山北の「焼畑」(ナギノ)は、杉の植林と結びつくところに特徴があり、近年では特産となった赤かぶの生産に大きな役割を持つようになりました。ただ、この焼畑を行う方たちの高齢化は、この技術の継承を困難な状況にしています。

今春にさんぽく会館で開催された「第5回全国焼畑フォーラムin新潟・山北」では、研究者ほか、山形、福井、滋賀、山梨、石川、島根、宮崎の各県の実践者も集い、後継者不足に直面する状況など、その将来展望が議論されました。

焼畑は山と共生して初めて成り立つ農耕で、山地や山林を破壊しない考え方に支えられ受け継がれてきました。しかし、山の荒廃とともに害獣被害が大きな社会問題となり、私たちは今、自然とどうつきあっていくのかを問われています。

その答えは、先人がどのように山と向き合い生活してきたか、その暮らしぶりの中に隠されているのかもしれませんが。焼畑は先人の知恵を具体的に伝えてくれるものであり、その意味や技術について山北地区に暮らす者として今一度考えなければならぬのかもしれません。(参考: 山北町の民俗3-生業-)



◎地域づくり用語の豆知識◎

Q: 地域運営組織(RMO)とは (参考: 総務省資料)

A: 地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体(団体等)が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取り組みを実践する組織を言います。

具体的には、人口減少や高齢化が進む地域では、集落機能の低下により、空き家や農地等の財産管理などの新たな課題、高齢者の見守りや除雪、草刈りなど生活支援に関わる課題の増加、さらには人口減少に伴う商店やガソリンスタンドの撤退など、地域コミュニティの衰退に対する課題解決に向けた取り組みを地域の人々自らが実践する組織です。

「山北地区まちづくり協議会」も、この地域運営組織(RMO)に位置づけられ活動しています。

住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを支える

山北徳新会 介護医療院

長期療養が必要な方

看取りケアをご希望の方

介護と医療の支援が必要な方

☎ 0254-60-5555

入所相談・施設見学受付中

さんぽくのキッチンカーといえば

にこまちキッチン

白いもちもちのたいやき&オリジナルドリンク各種♪
見かけたらぜひお立ち寄りくださいね!



@NIKOMACHI_KITCHEN



イベントや行事などの出店のご依頼も受け付けています。
Instagram・公式LINEからお気軽にご連絡ください♪